

# 滋賀県精神保健福祉協会だより

## 平成十一年度 地域生活協力員交流会 つがやま荘で会いましょう

「共に生きる地域づくりをめざして」

### 地域生活協力員交流会実行委員

十月五日、平成十一年度地域生活協力員交流会が守山市にある「つがやま荘」で開催されました。

今年度の交流会は、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部改正に伴い、精神障害者に対する在宅福祉サービスが、今後、身近な市町村を中心に推進されることから、地域での精神保健ボランティア活動も関係者との連携をより大切にしなければいけないことを意識した内容で行われました。

開会あいさつの後、滋賀県立精神保健総合センターの田崎所長より、「これからの精神保健」―住み良い地域づくりにむけて―との演題で講演をいただきました。その内容を簡単にまとめると、

- ・日本では、軽うつ状態を含めると五人に一人が精神疾患を患っており、精神病は決してまれな病気ではない。
- ・アメリカやカナダの精神科医療は、入院



ベッドを減らし、外来治療と地域社会のサポートネットワークにより行われている。日本における今回の法律改正の趣旨もここにある。

・今回の法改正により、地域生活支援センターが社会復帰施設として位置づけられ、また、ホームヘルプやショートステイといった在宅福祉事業も創設されるなど、地域支援システムづくりが進められるが、これに伴いボランティアの役割が今後、ますます重要となってくるので活躍に期待したいというものであります。

続いて、当事者であり、かつ精神保健ボランティアの仲間でもあるMさんから貴重な体験発表をいただきました。

・自分の病状が不安定な時に、そばにいて優しい相づちを打ってくれる知人がいてくれて、とても心が落ち着いたとの体験談。

・精神病院の開放化や精神障害者の雇用促進などがニュースとして取り上げられるが、その実態はまだまだ十分でないことへの批判。

・福祉サービスを受けるための障害者手帳を自分も受けることができるが、そのことでレッテルを貼られるような気がする。また、どこから精神障害者であることが周囲へ知れ渡るのはないかという、当事者としての複雑な思い。などが語られ、結びとして

「病気を受け入れるのに十年かかったが、今はこの間のつらさを今後の人生に生かしたい。病気を宝物と考え、うまくつきあいながら少しずつ歩んでいきたい。」と参加者の胸に迫るものであります。

この後、五つのグループに分かれてボランティアの交流会へと移ってまいりました。

今年度は保健所の保健婦の他に、市町村の保健婦と社会福祉協議会職員にも加わっていただきました。そして、それぞれが精神障害者にどのようなかわりを持っているのか、更に、今後ボランティアがどのように協力関係をもっていくのか、について意見交換

を行いました。

いろんな意見が出された中で、ボランティアの側からは、精神障害者についての学習や活動も実践してきており更に活動の場を求めるが、行政の側からは当事者に対する守秘業務などの理由から、充分なものが帰ってこない等、容易に答の出せない意見もありました。

これらの意見について、意見交換の後で、岡山県精神保健福祉センターの臨床心理士である本田政憲先生に次のようなコメントをいただきました。

・ボランティアと当事者が出会う機会づくりとして岡山県では、行政が事務局として間に入って、お見合い方式により行っている。

・元氣なボランティアには、当事者や家族が戸惑ってしまうこともあるので、援助の方法について当事者や家族も含めた運営委員会で検討している。

・ボランティアは、「してあげる」でなく「一緒にしよう」という立場に立って、肩ひじを張らない活動に心がけてほしい。

・よき相談者になるには、当事者が安心してきる関係をつくること。そして当事者の悩みを共有してあげられればよい。

本田先生には、ご自分の実践をとおして、ボランティアのあり方や今後の活動のあり方について、非常に参考となるコメントをいただきました。

当日は、わずか三時間あまりでしたが大変有意義な交流会であり、来年もまた開かれることを期待して結びとします。



▲本田政憲先生

# 「僕、障害者のニュース」

## 参加してよかった」

障害者のついで  
実行委員 宮田正春

暑くもなく、寒くもなく、快晴の空の下、赤松を主とした緑の森に包まれ、松茸の香り漂い、シジュウカラやヤマガラ・エナガなどの小鳥が鳴いている。そんな森の中の一木道を歩いていくと、突如コンクリートの近代的建築物が目に入った。：今年の一障害者のついで」は、十月三十一日龍谷大学瀬田キャンパスで、大学学園祭の開催に合わせて開催された。普及啓発活動を行う方法は、いろいろあります。今年は、広く地域住民の方々、特に学生さんとの交流を目的におこなわれました。

よく、地域経済を発展させるため「産・官・学」が連携をとり進められています。滋賀県の精神保健の分野では、行政・医療機関との連携が活発ですが、地元の大卒とはまた顔を知らない状況だと思います。先日、ニュースで滋賀大学経済学部の学生と彦根の商店街が連携し、商店街活性化の一助となっているという話を耳にしました。滋賀県内のいろいろな大学や専門学校などと県内の作業所など社会復帰施設が、よりお互い刺激し合えば、より新たな発想が生まれるかも知れません。今年のこのついでがそんなきっかけになれば、今回のついでは成功したと言えるでしょう。

私は、今回龍谷大学の学生ボランティアと話をし、スゴいパワーを感じました。精神保健福祉士を目指す若者たちです。秋の一日、すがすがしい一日を過ごすことができました。

学生ボランティアの方より  
お手紙をいただいていますので  
ご紹介いたします。



▲好評だった講演会  
講演中の湖南病院院長  
木田孝太郎先生

●演題：「精神と心」  
—ドラゴンの季節  
(青春)をめぐる—

## 精神保健福祉協会の皆様へ

前略

過日は、龍谷祭でのフリーマーケットにボランティアとして参加させていただきました。誠に有難うございました。精神障害者福祉を学ぶ私達にとって、大変貴重な体験となりましたとともに、学生生活最後の学園祭を有意義なものとする事ができました。作業所のスタッフ・メンバーの皆様、精神保健福祉協会の皆様と交流していく中で、地域の一員として参加すること、皆でいっしょになって何かをすることのすばらしさを実感しました。初めて参加させていただいたこともあり、前半は何をどうすればいいのか、戸惑う場面もありました。しかし、時間を経るごとに皆様とも談笑するまでになり、気がついたら一日が終わってしまったというような感じがしました。

またこのような機会があればぜひともよろしく願います。

私達は来年卒業を控え、卒業論文、就職活動、そして一月の精神保健福祉士国家試験に向けての勉強等々、何かと忙しい日々を送っております。皆様との出会いを忘れず頑張っております。ありがとうございます。

草々

### 「感じたこと・思ったこと」

○自分達の大学に来て頂いたという事で、あまり緊張せずにスタッフ・メンバーの皆様と話をすることができた。その点では良かったが、せっかく自分達の大学に来て頂いたのだから、もう少し大学を紹介したりできる機会があればさらに良かった。

○当日、初めてメンバーさん達とお会いしたのだが、事前にお会いできる機会があれば、もっとスムーズに打ちとけることができたのではないかと思った。

○フリーマーケットに参加するということで「少しでも売らなければ…」という思いが先行して、自分が参加させてもらった以外の作業所のスタッフ・メンバーの皆さんとの交流があまり持てなかつた。

○フリーマーケット以外にも、メンバーの皆さんといっしょに龍谷祭のイベントに参加できれば良かったなあと思っています。

○今後、大学のイベント以外に、普段の生活の中でボランティアなどの交流の機会が作れたらと思う。

○私達の好きなようにさせていただいたことがとても良かったです。

龍谷大学社会学部社会学科4回生

片山 順也・芦田 亮  
南 さやか・清水 美紀  
青木 里都・岸田裕己彦

## 「みんなの健康フェア」に参加して

龍谷大学社会学部社会学科3回生

柴田ひとみ

大学で精神保健福祉を学んでいる学生です。大学では精神保健学や精神医学などのいろいろな授業でたくさん知識は身につきますが、それだけではほんとうに精神保健福祉を学んだことにはならないのではないかと感じるようになりました。そこで、「こころの健康フェア」に参加して、いろいろな障害をもった方や、精神保健福祉に関わる方と一緒に過ごして、共同の作業をすることで、少しでも「頭でっかち人間」から脱出しようと思いました。

この一日でいちばん感じたことは、障害を持つているかいないかは大きく重要なことではないということです。みんなでお店を開いて、たくさんの方に商品を買ったり、合間に世間話やお互いの話をしている時は、誰が障害を持って誰が持っていないかを感じることはありませんでした。私は帰りに障害を持った方から「頑張って勉強しいやー」と応援されました。これからは知識もつめこみながら、体でも一生懸命に勉強しようと思えました。来年もぜひ参加させて頂きたいです。またよろしく願います。



滋賀メンタル友の会5周年記念事業につきましても実施報告をいただきました。

## 「シヤンテ」と語ろう!

「滋賀メンタル友の会」5周年記念事業

滋賀メンタル友の会 大木 昭子

十月二日はとても「あつゝい」一日でした。季節はずれの気温、それを上回る熱気が会場の野洲文化小劇場を包んでいました。「シヤンテ」の熊野さんは、全盲のプロミュージシャン。そして、日本で初めての手話ボーカリスト山本さん。障害をのりこえて日本国内はもとより、海外でも活躍されるその歌と語りは、私たちの「友の会」が目標としている「こころ病む人たちが地域社会のなかで、自分らしくあたりまえに生きていけるようにする」活動をそのままたく強き魅力いっぱい、人々の心にうったえかけてもらえるものでした。

思えば五年前「友の会」が誕生した時は、会員二十九名で、その当時の「会報」というよりは「おしらせ」に、「第一回目の話し合いで、うつつらと友の会のイメージが湧いてきました。」と書かれています。五周年を迎えた今日、会員数一三七名、活動の内容は、

- \* 情報の提供会報「白い虹」を発行
- \* 一泊二日の研修旅行
- \* グループホーム・保健センターの社会復帰教室への参加、病院のデイクア・作業所などでの作業指導、老人ホームでのボランティア体験の同行



\* 家族会との交流  
 \* 当事者の会への支援  
 \* サロン活動……健康福祉センター(保健所)・公民館・自宅開放など  
 老人ホームでのお年寄りと当事者が共に集えるサロンも展開  
 \* 研修会・例会の開催  
 \* 病院の順番とり、手紙や電話での交流、買い物物の付き添い、出勤介助など日常的支援  
 \* 滋賀県精神保健福祉協会事業への参画など:

と大きく躍進してきました。世間の多くの会が、立ち上げた当時は熱気に包まれ活発な動きを見せても、次第に沈静化し先細っていく中で、「友の会」はどんどん広がりが高まっていきます。何がそうさせているのか、いろいろ数え上げることができるとは思いますが、そばで見ている感じるのは、「核になる人たちの献身的な働き」と「誰でも自由に無理をせず、運営や活動に参加できる柔軟性」そして何よりも、「一歩に歩もうよ」という理念の実現」が

行われているからではないかと思えます。みんなを代表してステージに登場した人たちは、それらを象徴していました。設立当初からしっかりと事務局を運営し、今回も資金集めや実行委員会の推進に奔走し、今日は行き届いた心くばり祭典を進行する人。五年前の設立フォーラムで「友の会」のことを知り、共に歩んでくれる仲間と出会って、今日は是非ともその喜びを伝えたいと、勇気を出してステージからメッセージを送ってくれた人。ステージの上で緊張するその人にそと寄り添ってさりげなく支え、「友の会」のあるべき姿を見せてくれた人。特別の気負いもなく、はつらつとした明るさでこれからの「友の会」に新しい彩りと元気を与えてくれた人。ライトを浴びてみんな素敵でした。

「夢はいつかはかなう」花を咲かせようよ。「シヤンテ」の歌声とメッセージにあわせ、ステージと会場とが一体となつて何度も手話の花を咲かせました。熱いものが胸いっぱい広がる一日でした。

十一月二十二日(月) 彦根市民会館大ホールでNPO法人サタデーピア設立記念講演会がありました。南彦根クリニックの患者家族会を母体にして生まれ、今後精神保健福祉の領域で様々な活動を企画していこうとしています。当日は日高敏隆滋賀県立大学長と木田孝太郎湖南病院長のバトルトークがありました。動物行動学と精神医学の交流がとても興味深かったです。(西永)

## 伝言板

### SST研修会のご案内(ソーシャルスキルトレーニング)

- ◎日時 平成12年2月13日(日) 午前10時から午後4時まで
  - ◎場所 彦根燦パレス(JR南彦根駅西口 徒歩3分)
  - ◎内容 「SSTの理論と実際」講師:前田ケイ(ルーテル学院大学社会福祉学科教授、SST普及協会研修委員長)
  - ◎対象 対人援助(医療、福祉、教育など)の専門家
  - ◎定員 30名
  - ◎参加費 3,000円
- ◎問い合わせ先 〒522-0043 彦根市小泉町300-9 南彦根クリニック気付 サタデーピア事務局  
TEL0749-24-7808 FAX0749-24-7807

### 平成11年度(第19回) 滋賀県病院大会

- ◎日時 平成12年2月26日(土) 9:00~14:00
  - ◎場所 滋賀県医師会館 講堂(4F)
  - ◎内容 8:30 受付 9:00 開会 10:00 協議研究(各会場に分かれて)・分科会(1)テーマ「感染症対策について」(医師会館4階講堂)・分科会(2)テーマ「経営改善について」(医師会館3階教室)・分科会(3)テーマ「医薬分業について」(のぞみ荘会講堂) 11:40 協議研究報告(各分科会より) 12:00 特別講演/講師:厚生省大臣官房審議官 辻 哲夫氏(予定) 13:00 閉会
- ◎問い合わせ先 社団法人 滋賀県病院協会 事務局 〒520-0044 大津市京町四丁目3-33 滋賀プレスビル3階  
TEL077-525-7525 FAX077-525-5859

今回は、『精神保健福祉協会に期待すること』や『精神保健全般に関するご意見・アイデア』をいただきましたので、ご紹介します。

●「たすけてほしい」

11月にはいったばかりのある日、一人の当事者から電話がかかってきた。今、ひどいつつ状態らしい。声も弱々しく、言葉も少ない。沈黙が続く。「たすけてほしい」それがその人の精一杯の訴えだった。

私もうつ状態になった時、同じような事を思う。「たすけてほしい」

滋賀県精神保健福祉協会がどういう事をする会なのか、まだよくわからないまま「こころの会」代表として理事会に出席した夫は怒って帰ってきた。参加される理事の方が少ない。と言うのである。

私達当事者が、助けをもとめられる原点の一つである協会の理事会に、一人でも多くの理事の方に出席していただけるようになる事が今の私の一番の願いである。

「たすけてほしい」この一人の当事者が全身のエネルギーを振り絞って、声にした言葉を大切にしてほしい。聞きのがさないでほしい。まだ出発して3年目の協会だからこそ、これから先の活動を期待している。

「たすけてほしい」この言葉の意味を、その重さを、感じとってほしい。

すべてはこの言葉から始まっていくと思う。

(こころの会 吉澤鈴美)

●「感謝する心」

私は、小学五年の時に、出来たばかりの養護クラスに入りました。三人で始まった養護クラスも、六年になると九人にふえ、中には口のきけない人もいました。親子旅行やキャンプ、初めてのことばかり連続に驚いたことを今でも覚えています。

中学に入っても同じ仲間養護学級になりました。その頃には、冗談も少し言えるようになっていました。学校の先生が、わざわざ家まで来て下さって、勉強を教えてくださいました。毎日が充実して、あっという間の三年間でした。

職業訓練校を出た私は、働きながら車の免許に挑戦しました。会話の苦手な私に親切に教えて下さった先生、「また、遊びに来てね。」と云ってくれたお婆さん。いろいろな人と出会いました。あいさつも出来ない私に付き合ってくれた人たち。

病気になって仕事をやめてしまった私は現在、作業所に通っています。今まで多くの人の暖かい心に支えられて生きてきました。そして今、日常生活が出来るように頑張っています。色々な人と出会えたから、今こうして生きていられる。とても臆病だった私が……。

(琵琶湖葦工房メンバー)

●精神障害者は、やっと、共同作業所などを通じて、ほそほそながら働く場を得られる様になりました。反面自立した生活を営む場としての生活の場が保障されていません。はやく、自立した生活ができる場としての福祉ホームの建設と、その大いなる援助を希望します。(こころの健康フェア 参加者A)

●昨年こころの会が、「おかえり」の映画の上映会で協力者、カンパをお願いしましたが、反応は、なしでした。「患者会」が、映画をするということは、当事者自らが勇気をもって努力していることでもあり、精神障害者の啓発にもなります。来年には、映画がだめでも、ビデオの上映会をしたいと考えています。ぜひ協力をお願いします。(こころの健康フェア 参加者B)

●当事者の気持ちに答えられる様な活動を望みます。その為にいろいろな事を行なって欲しいと思います。(こころの健康フェア 参加者C)

●精神障害者で家族を亡くすと、住む所や生活が非常に困ります。アパートを借りるにも保証人がいません。お金も障害者年金だけでは、食べていけません。入院も保証人がいません。先の事を考えると苦しい事が多いです。

(こころの健康フェア参加 男性 29才)

●日本では精神障害者に対して人権問題としての認識の無さを特に、最近感じられます。このことをもっと広く、幼時期から人権問題に対しての教育を行なって欲しい。

(こころの健康フェア参加 男性 44才)



ブルームは

秋桜畑

秋景色

康雄

第5回 滋賀県精神保健福祉協会理事会

- ◎日時:平成12年3月16日(日) 午後2時～午後4時
- ◎場所:滋賀県立精神保健総合センター 研修室
- ◎議題:未定

傍聴を希望される方は、事務局までお申込みください。

心の健康づくりを考える県民のつどい

- ◎日時:平成12年3月5日(日) 午後1時～午後4時
- ◎場所:粟東文化芸術会館「さくら」中ホール 粟太郎栗東町二丁目1番28号 TEL077-551-1455
- ◎内容:講演「暮らしの中のユーモア」講師:織田正吉(作家・日本笑い学会副会長) シンポジウム「笑いと健康」一苦しい時こそユーモアをー

◎問い合わせ先 滋賀県精神保健福祉協会事務局

会員数 平成11年12月1日現在

一般会員	個人会員	338名
	団体会員	45団体
賛助会員	個人会員	24名
	団体会員	6団体

事務局からのお知らせ

平成11年12月6日から、滋賀県精神保健福祉協会の住所表示が変わります。

郵便番号:525-0056 所在地:草津市南笠町66番地

郵便番号:525-0072 所在地:草津市笠山八丁目4番25号

編集後記

◆先日、新聞の川柳欄に次の句が出ていた。『おれはまだ 寝てるのに バルサンたきよった』

考えようによっては悲惨な状況だが、笑ってしまう。

◆私たちを取り巻いている状況も、重苦しく辛いことが多い。しかしシリアスな状況にシリアスに対処するだけでは、より一層シリアスな袋小路にはいりこんでしまうことが多いのではないか。そういう場合でも、ユーモアをもって、少し距離をおいて対処することができれば、新しい解決法が見つかるかもしれない。などと考える日々です。

◆会報への投稿をお願いします。編集長への手紙という形でも結構です。

(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山)